

各種団体からのご意見について

《意見聴取期間》(H29.10.27～H30.1.19)

分野	団体	ヒアリング項目
教育分野	聖ドミニコ学院幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズ・プロジェクトについて ・子どもが過ごしやすい美術館について ・子どもたちの豊かな感性や創造性, 知的好奇心を育む活動を行うために, 県美術館に求める機能 ・学校教育と県美術館との連携について
	県総合教育センター	
	県仙台第二高等学校	
生涯学習分野	仙台ひと・まち交流財団	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズ・プロジェクトについて ・県美術館との連携について
子育て分野	NPO法人 冒険・遊び場ーせんだい・みやぎネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが過ごしやすい美術館について ・キッズ・プロジェクトについて
	宮城県PTA連合会	
	ハート and アート空間 BE I	
福祉分野	宮城県障害者福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインについて ・バリアフリーについて ・障害を持った方が過ごしやすい美術館についての考え
	NPO 法人エイブル・アート・ジャパン東北事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズ・プロジェクトについて
観光分野	仙台観光国際協会	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の観光客誘致における美術館との連携について ・県内で開催される国際会議等の動向について
国際交流分野	宮城県国際化協会	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の方の美術館利用について ・ユニバーサルデザインについて
	東北大学(留学生)	
芸術分野	リアス・アーク美術館	<ul style="list-style-type: none"> ・県美術館のリニューアル全般について
震災関連	せんだい 3.11 メモリアル交流館	<ul style="list-style-type: none"> ・震災について各団体が考える今後の情報発信のあり方について

事項	内容	事務局の考え方
第2章リニューアルの目的と方向性 3 施設改修の基本方針 P15	<ul style="list-style-type: none"> 現在の前川建築に調和させたデザインでいくのか or 子どもスペースだけ突出したモダンなデザインなのか？ それはどういう理由によるものか。ソフトも含め、どこの国・県の施設をモデルに考えているのか。 県はどんな「21世紀の子ども観」を持っているのか。プラス今日的課題としてどんなことを挙げるのか。それらを加味したハード&ソフトを考えているのか？例えば、中庭は子どもが転ぶとタイルの角でけがをしやすかったり。特に今日的ハードは、素材を吟味して使用すべきと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術館が現在もっている財産・資源を最大限に有効活用することを念頭に、「建物の合理性の精神」についても尊重することとしており、現時点では、特に突出したデザインについて想定はしていません。 また、特定のモデルは現在ありませんが、他館の例や県民の皆様のご意見を参考にさせて頂きながら、県美術館の強みを活かすことができるよう、リニューアル事業に取り組んで参ります。 「子ども観」に関しては、「第2期宮城県教育振興基本計画」の「目指す姿」や「目標」を踏まえながら、子どもの自主性を重んじ多様な個性やより良い未来を創造するための志の育成の一助となるような取り組みを「キッズ・プロジェクト」において実現できるようにハード面・ソフト面共に検討して参ります。
第3章 リニューアルの具体的内容 1 機能と改修内容 (1)子どもたちの豊かな体験を創出する美術館 P16～P17 キッズ・プロジェクトについて	<ul style="list-style-type: none"> 障害をもつ子ども本人が「どうして欲しい」と言える、「ここに来てもいいんだ」、「楽しい」と思えるプログラムがあると良い。 何歳までが対象なのか知りたい。小学生を主なターゲットにすると良いのでは。 子どもを対象とする「教育旅行」の班別研修で利用できるプログラムがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが主体的に関わることのできるプログラムづくりに励みます。 基本方針の最終案 P16 に「子どもが行っても良い、居ても良いと思える場所づくりを行うこと」について、記載を追加しました。 現時点で「キッズ・プロジェクト」の対象年齢は定めておらず、広く対象を募りたいと考えております。 「キッズ・プロジェクト」で実施するプログラムを検討する際の参考にさせていただきます。

事項	内容	事務局の考え方
<p>第3章 リニューアルの具体的内容</p> <p>1 機能と改修内容</p> <p>(1)子どもたちの豊かな体験を創出する美術館</p> <p>P16～P17</p> <p>キッズ・プロジェクトについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の修学旅行等で「るーぷる仙台」が利用されることが多いので、美術館との連携を強めたい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分の判断で制作できる形にして欲しい。道具を与えるのではなく、自分で必要な道具を選べる、作れるような形が望ましい。 ・ただの遊び場ではなく美術館にある子どもの遊び場であることを意識してプロジェクトを練って欲しい。 ・大人と子どもが共存できる、誰が来ても良いという形が望ましい。 ・子どもに美的な体験をとおしてインパクトを与え、興味を惹くことが重要。色や形など、学校にはない子どもを惹きつける素材を用い、学校ではできない造形活動の経験が得られるようなプログラムがあると良い。 ・室内だけではなく外の空間で子どもの拠点となる場所があっても良い。子どもが好きな一見無駄に思えるスペースがリニューアル後も残ると良い。 ・図画工作科の新しい学習指導要領も意識して計画して欲しい。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・あそび場は子どもが自ら行く場所だが、美術館は大人が連れて行く場所なので、子どもが美術館に来るきっかけを考える必要がある。 ・子どもが美術館に来たときに好奇心を刺激され、「何があるんだろう」と思わせる環境づくりが必要。ほっとする場所、目的にとらわれずに行きたいと思う場所、行っても良い、居ても良いと思える場所づくりを。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「キッズ・プロジェクト」で実施するプログラムを検討する際の参考にさせていただきます。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・従来より利用者の自主性に重点を置いた教育普及活動を実施して来ており、リニューアル後もその精神は大切にしたいと考えています。 ・キッズ・プロジェクトでは、子どもに関する取組を通じて、誰もが過ごしやすい美術館づくりを目指します。 ・子どもが様々な素材に触れられる機会の充実を目指します。 ・美術館の屋外の環境も活用しながら、プログラムを実施します。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの知的好奇心を刺激するような仕掛けを考え、常に新しい発見が生まれるようなプログラムの構成を目指します。 ・基本方針の最終案 P16 に「子どもが行っても良い、居ても良いと思える場所づくりを行うこと」について、記載を追加しました。

事項	内容	事務局の考え方
<p>第3章 リニューアルの具体的内容</p> <p>1 機能と改修内容</p> <p>(1)子どもたちの豊かな体験を創出する美術館</p> <p>P16～P17</p> <p>キッズ・プロジェクトについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つなぐことに重点を置くと良い。例えばリニューアルの際に、美術館の壁等に何かを複数埋め込み隠す。それを子どもたちが探す。また次に来て、見つけられなかったものを探そうと子どもの中に目標が生まれるようにして、次に繋がる仕掛けを作る。 ・子どもは美術館に繰り返し行くと、そこでのルールを覚える。子どもが入りづらい場所があっても良い。(大きくなってから入れば良い。) ・とても良いアイデア。子どもが「やってもいい」と「やってはいけない」ことは10対0の関係ではない。そのルール感は遊びなどを通して自分の中に生み出すもの。 ・子どもに対しては「今は種をまく」というアプローチもある。収穫はまだだが、後でその体験の意味がわかるかもしれない。 ・障害をテーマにしたプログラムには大きな可能性がある。障害者だけでなく、障害のない人も集まることで新しいものが生まれる。障害をすべての人が共有することは難しいが、特に子どもの頃からいろんな人がいるということを意識することが大切である。 ・聴覚支援学校の生徒に向けた鑑賞プログラムをやって欲しいというニーズはある。 ・子ども連れで来館しやすくするためには、子どもを預けてゆっくり観覧できる託児所があると良い。あるいは、逆にキッズ・スタジオのような所は子どもが入口となり、大人の関心を誘うこともできる。 ・夏休みや冬休みの宿題のヒントになりそうな活動があれば、子どもも行きたがる。 ・今の子どもはものを作ったり、描いたりする機会が少ない。そのような経験が小さな頃から与えられるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが繰り返し足を運びたくなるような美術館の環境づくりを目指します。 ・美術館でのルールを子どもに理解してもらうための取り組みは、「キッズ・プロジェクト」のテーマの一つと考えています。 ・美術館でのルールを子どもに理解してもらうための取り組みは、「キッズ・プロジェクト」のテーマの一つと考えています。 ・「キッズ・プロジェクト」で実施するプログラムを検討する際の参考にさせていただきます。 ・子どもの知的好奇心を刺激し、造形活動の楽しさを知るきっかけとなるようなプログラム構成を目指します。

事項	内容	事務局の考え方
<p>第3章 リニューアルの具体的内容</p> <p>1 機能と改修内容</p> <p>(1) 子どもたちの豊かな体験を創出する美術館</p> <p>P16～P17</p> <p>キッズ・プロジェクトについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 例年、夏休み明け(8月末頃)に園児を連れて来館したいと考えるのだが、予約が取れず、9月になることが多い。キッズ・スタジオが整備されることで、予約の集中が緩和されることを期待したい。 • 粘土の活動後は体を洗った後にタオルで拭き、着替えをして帰る。タオルは持参するのだが、着替えは廊下で行っているため、着替え用のスペースはほしい。 • 美術館で子ども向けにどんなプログラムができるのか、何が使えるのかがもっとわかると良い。 • 幼稚園の畑で育てた芋のつるでリースを作る(園内の)活動は子どもの反応がとても良かった。子ども向けのプログラムについて自分が育てたものと作る活動の間に、つながりや循環が見えるのが良いようだ。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもの活動の場は、コミュニケーションが生まれ、社会性がはぐくまれる場になるとよい。当方では、同世代や親子の関わりのほか、世代間交流や異世代交流を通して、子どもに社会性を身につけてもらうことなども意識している。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> • キッズ・スタジオ等子どもが利用する施設は必ずしも広ければ良いというものではない。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> • 「キッズ・プロジェクト」については、多様性が謳われている時代及び高齢化社会の中で何故子どもだけを対象にするのか疑問に思った。子どもに焦点を当てて、誰もが過ごしやすい美術館を目指したり、未来につなげるということを考えているということであれば、子どもを一つの窓として捉え、「子ども」という表現ではなく「子ども心を創造できる」とか人が持っているクリエイティブなものを刺激することを表現することを心がけてはどうか。キッズ・プロジェクトの表現にメッセージ性がないのでは。何かキーになる言葉があるはず。キーとなる言葉を模索して表現してみてもどうか。 • また、多様な世代が交流するプログラム、異なる人たちが交流することで新たな発見が生まれるようなプロジェクトがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 団体利用への対応には、活動場所と共にスタッフのスケジュール調整の問題もあるため、適切な人材の確保に努めます。 • リニューアルの際に創作室付近に来館者が利用できる更衣室と荷物置き場を設置することを検討します。 • 子どもたちが美術館でできることについては、適切なPRの方法を検討します。また、基本方針最終案の P19 に広報活動の充実に関して記載を追加しました。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもの社会性を育むようなプログラムを実施していきます。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもにとって快適な空間については、設計や事業の企画に向けて引き続き検討を深めます。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> • 「キッズ・プロジェクト」は、子どもに焦点をあてていますが、子どもから大人までその人の内にある感性や創造性の発見の一助となるようなものを目指しており、最終案においてキッズ・プロジェクトについてより詳細に表現しました。また、基本設計に向けて、プロジェクトの名称を含めわかりやすく皆様にお伝えできるよう検討を重ねてまいります。 • 多様な層の方々が交流できるようなプログラムについても取り組んで参ります。

事項	内容	事務局の考え方
<p>第3章 リニューアルの具体的な内容</p> <p>1(1)子どもたちの豊かな体験を創出する美術館 P16 学校教育との連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台圏外に住む子どもたちについては、移動美術館は積極的に実施してほしい。特に素材体験が良い。 ・ 県内の仙台から遠い地域では、宮城県美術館の存在すら知らない子どもだけでなく大人もたくさんいる。小さい時に本物に出会うことは大事。来られない地域や層に向けては、美術館の側から『行って』体験を提供すべき。子どもの頃の出会いはあるかどうかで、将来の夢の広がり、ひいてはその町の文化度が違ってくる。子どもにどんな宮城を背負ってもらえるかを問う体験を。 ・ 現在小中学校の学習指導要領が改正されている。改正の趣旨としては、人口減少やグローバル化の進展や技術革新等により社会構造や雇用環境が大きく変わり、予測困難な社会の中で子どもたちが生きるための力をつけるために、教科全体を通して「何ができるようになるか」を明確化する3つの柱が示されている。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 何を学ぶか ⇒ 生きて働く「知識・技能」の習得 ■ 培った知識や技能をどう使うか ⇒ 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成 ■ どのように社会と関わり、よりよい人生を送るか ⇒ 学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性等」 ・ 美術館においても、学校で何をやっているかを知る必要があると思われる。美術館の職員が上記3つのテーマを意識した上で、子どもに対するプログラムを実施してもらうことが、学校教育との連携につながるのではないかと考える。 ・ 美術館の教育普及部でも、子どもの自発性や自主性に重点を置いて事業を実施してきており、やっと学習指導要領がそういった美術館の考え方に追いついてきた、という感じではないかと思われる。 ・ 新学習指導要領の解説でも美術館との連携の必要性が書かれており、子どもの造型活動の場として、美術館も大きな役割があると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改修工事による閉館中の取組として、移動美術館等のアウトリーチ事業を検討しています。リニューアル後の活用も見据えながら、事業の内容について検討を進めて参ります ・ 地域の教育機関と連携し、子どもの美術教育の一助となるような取り組みを行います

事項	内容	事務局の考え方
第3章 リニューアルの具体的な内容 1(1)子どもたちの豊かな体験を創出する美術館 P16 学校教育との連携について	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校の新学習要領において総合的な探究の時間がカリキュラムに組み込まれることとなる。これは解のないものを探求し、皆が合意できる答えを生み出すというものである。美術館がそういったものの創造の場になるとうれしい。 また、美術館から学校現場に美術の指導に来るのも有用だと思われる。 教育現場とより連携するべき。長期休暇に向けた特別プログラムや、教員の5年研、10年研とのコラボレーション等で、子どもと関わる側の人材を育成していくことも必要。美術館は学校にないことを体感できる施設であってほしい。アートの最初のステップは「選択力」。様々な美術作品がたくさんある。美術館は選択力を磨く格好の場所。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育機関と連携し、子どもの美術教育の一助となるような取り組みを行います
第3章 リニューアルの具体的な内容 1(2)人々が憩い、くつろぎ、集い、つながる美術館 P17 人的対応について	<ul style="list-style-type: none"> 受付のスタッフや監視員に障害者への理解促進が図られるよう教育して欲しい。 建物がいくら利用しやすくなっても、対応が悪ければ人は集まらない。職員のみならず受付や監視員等のすべてのスタッフが、障害を持つ人や特別なニーズをもつ人への対応を学ぶ機会があると良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な背景の人々が美術館での時間を快適に過ごすことができるよう、施設の構造から人的対応に至るまで、行き渡った配慮を実施することを基本方針最終案のP17に記載しており、頂いたご意見を参考にしながら今後検討を進めて参ります。
第3章 リニューアルの具体的な内容 1(2)人々が憩い、くつろぎ、集い、つながる美術館 P17～P18 情報・交流ラウンジについて	<ul style="list-style-type: none"> 「インスタ映え」は重要で、特にラウンジは写真を撮って拡散してもらうことを意識したい。館のシンボルが見えるなど、一目で宮城県美術館だとわかる場所だと良い。 図書コーナーに、日本の歴史や美術について英語で書かれた本があると良い。 どなたでも気軽に立ち寄れるラウンジがあるのはとても良いと思う。しかし一方で、「誰でもくつろげるスペース」は、休憩のためだけに訪れる方が多くなりやすい傾向もある。当方が管理する施設でも以前そのようなことがあり、利用者からのクレームがあったことがある。 美術館は時間に追われず、ゆっくり過ごす場所であってほしい。 集える場所にしても、節度が必要。美術館としての雰囲気は大事にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報・交流ラウンジの空間設計の参考にさせていただきます。 情報・交流ラウンジにおける図書コーナーの運営の参考にさせていただきます。 情報・交流ラウンジの運営の参考にさせていただきます。 館内に自由に時間を過ごし滞在できる情報・交流ラウンジを新たに設け、来館者がゆっくりと過ごせるような空間づくりを目指して参ります。 情報・交流ラウンジでは、主に美術と美術館に関わる様々な情報に触れることができるスペースとして設置することを考えております。

事項	内容	事務局の考え方
<p>第3章 リニューアルの具体的な内容</p> <p>1(2)人々が憩い、くつろぎ、集い、つながる美術館</p> <p>P17～P18</p> <p>バリアフリー・ユニバーサルデザインについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害を持つ方の中には雨の時に傘がさせない人もいますので、駐車場から入口までの間に庇があると助かる。 ・ 車いすの方は、健常者よりも入口を狭く感じる。振動も大きく感じるので、地下鉄等では車いすの方を試乗させて整備したようだ。 ・ 知的・発達障害等を持つ人は、急に環境が変わると怖がったり、びっくりして大きな声を上げてしまったりするので、心の準備が必要。展示室に入る前に展覧会の映像が見られたり、展覧会のモチーフや簡単な解説など次に行動することの手がかりが見られたりすると良い。 ・ 展示室の中にちょっとした抜け道のような場所、逃げられる場所があると、ずっと展示物を見ていなくてはならないという緊張が少なくなると思われる。 ・ 触っていい作品・いけない作品等について絵や短い言葉で表すサインボード等、一目で見て理解できるサインが館内にあると良い。 ・ 音声ガイドはあるが、紙のガイドがない。聴覚障害者から、「展示室内に紙のガイドがあれば良いのに」という意見を聴く。 ・ LGBTの方への配慮として、多目的トイレがあると良い。特に人が多い場所では複数あると良い。 ・ 今の子どもは和式トイレの使用に慣れていない。リニューアルの際には洋式化した方が良い。 ・ 美術館の車椅子を使うとお尻が痛くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リニューアルの際には、高齢者や障害を持つ方が安心して来館できるようバリアフリーに十分留意した設計とします。 ・ 今後の設計の検討の参考にさせていただきます。 ・ 紙のガイドについては、今後の展示の検討の参考にさせていただきます。 ・ また様々な方が快適に過ごせるようユニバーサルデザインについて十分に配慮した設計となるよう努めます。 ・ トイレ、化粧室については現代的設備により設置します。 ・ ナブテスコ株式会社よりアシスト付きの電動車椅子を1台寄贈して頂いており、積極的な活用を図るため利用者にアナウンスをして参ります。また、既存の車椅子についても、使用感の向上を目指し、改善を図れるよう努めて参ります。

事項	内容	事務局の考え方
<p>第3章 リニューアルの具体的な内容 1(2) 人々が憩い、くつろぎ、集い、つながる美術館 P17～P18 バリアフリー・ユニバーサルデザインについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害を持つ方は、人の多さで調子を崩したり、気になることがあるとパニックになることがあるため、エスケープできる場所が必要である。造形遊戯室はちょうど良い広さだった。また、オリエンテーションルームには展示室に入る前に心の準備ができるようにプロジェクターや、椅子が置いてあると良い。 ・ カーテンで仕切れるクワイエットルームという部屋を準備した展覧会があった。一時的に作れる形でもいいので5、6人が入れるスペースで暗くして寝転がれるベンチを設置して保健室みたいな部屋があると良い。 ・ 多目的トイレに大人のおむつ替えが出来る場所があると良い。 ・ 出来ることが見える化できると良い。ベビーカーに対応できるか、授乳室があるか、筆談ボードがあるか、補助犬 OK か等。それらが全て受付でわかるように示したり、HP に掲載されていると障害を持つ方は受け入れられているという安心感を持てる ・ 「みんなの美術館プロジェクト」(美術館×インクルーシブ×デザイン実行委員会)という誰もが心地よく利用できる美術館を考える取り組みが実施されており、様々な背景を持つ人々が美術館を利用する際の課題やその課題を解決するためのアイデアをまとめた「みんなの美術館デザインノート」(http://www.museumforall.org/102work.html)がある。誰もがすごしやすい美術館のヒントになるのでは。 ・ 「情報」のユニバーサルデザイン化も必要。(表示の大きさやピクト等)世田谷区では、ガイドブックを作成している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本設計時の検討材料にさせていただきます。 ・ 今後の広報活動の参考にさせていただきます。
<p>第3章 リニューアルの具体的な内容 1(2) 人々が憩い、くつろぎ、集い、つながる美術館 P17～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 館内に多目的で自由に飲食できるスペース等があると良い。また、胃ろうの方が食事するときや、喉に器具を入れている方が、痰を吸引できるような一時的にカーテンで仕切れるスペースがあると良い。 ・ お弁当は天気が良ければ屋外で食べるが、雨天時には廊下で食べることになるので、飲食スペースが欲しい。明るい場所であると良い。シート等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リニューアルの際に新たに飲食スペースを設置することを検討しています。

事項	内容	事務局の考え方
P18 飲食スペースについて	を敷いて床に座って食事が多いので、椅子は必要なく、むしろフラットなスペースが良い	
第3章 リニューアルの具体的な内容 1(2) 人々が憩い、くつろぎ、集い、つながる美術館 P17～P18 カフェ・レストランについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の運営するカフェ、障害者のオリジナルグッズを販売するショップを入れては。 ・ カフェ、レストランは夜にも開けたら良いのでは。 ・ ショップには地元の作家に関連した商品を。美術図書を豊富に置いて誰でも手に取れるようにしてほしい。 ・ ミュージアムショップはテーマ展示に応じたポップアップコーナーがあると良い。また、レストランのづくりは重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レストラン・カフェ、ミュージアムショップに関しては、来館することが更に楽しみになるようなものを備える旨を基本方針最終案 P17 に記載しており、その運営等に関しては、頂いたご意見を参考にしながら今後検討を進めて参ります。
第3章 リニューアルの具体的な内容 1(3) 国内外の人々が魅了される美術館 P19～P20 ヴィジブル・ストレージについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヴィジブル・ストレージは本当に作品にとって良いことなのか？ ・ 美術品を修復していく課程を見せたり、「あなたが選ぶ常設展」として来館者がコレクションをピックアップし、それを展示するというイベントを実施してみるのはいかがでしょうか。 ・ ヴィジブル・ストレージは、保存管理面から考えると非常にリスクが高いという印象。作品の露光時間が長くなる点を考慮しなければならない。また、収蔵庫をガラスで囲うことは、作品の側でガラスが割れるリスクを負うことになる。より多くの作品を公開できるというメリットはあると思うが。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヴィジブル・ストレージにおける展示に関しては、展示作品の選定や、作品の展示環境等に留意しながら効果的な展示方法を検討して参ります。
第3章 リニューアルの具体的な内容 1(3) 国内外の人々が魅了される美術館 P19～P20 展示事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宮城在住の外国人は、せっかく宮城にいるので、地元の文化に触れたいと考えている。常設展に力を入れることが重要。 ・ 実物の作品だけでなく、レプリカ等も展示してみてもは。 ・ 学芸の体質が古いと感じる。図録の論文への偏重があるのではないか。論文やトークで補完するのではなく、展示の説明は展示室の中で完結しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リニューアルによって常設展の一層の充実化を図ります。 ・ オリジナルの作品を公開することが美術館の使命だと考えられますが、展示の手法については今後も幅広く効果的なものを研究いたします。 ・ リニューアルに際し、来館者の多様なニーズ等今日的な課題に対応することが不可欠であり、展示の在り方についても、従来の方法を振り返りながら、できるだけ多くの県民の皆様の魅力を感じていただけるよう、研究して参ります。

事項	内容	事務局の考え方
第3章 リニューアルの具体的内容 1(3)国内外の人々が魅了される美術館 P19～P20 展示事業について	<ul style="list-style-type: none"> 特別なニーズを持った人に対し、ある一定の時間、美術館を開放する展覧会が近年増加している。開館前や閉館後の時間、閉館日の昼の時間などを利用して実施するケースが多いようである。そういった特別なニーズに沿った展覧会と一般的な展覧会を対象者が選択できるようになると良い。 わかる人にだけわかるアートではなく、すべての人につながるソーシャル・アートが求められている。例えば、展示室の作品の奥で、同じ作家が作品を作っているところを見られると良い。作っているプロセスを含めて展示をするというのも良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の展示事業の検討材料とさせていただきます。
第3章 リニューアルの具体的内容 1(3)国内外の人々が魅了される美術館 P19～P20 教育普及事業について	<ul style="list-style-type: none"> 創作室に障害者の人が入っていくきっかけを作れると良い。 創作室には、溶接できる機械をはじめ様々な道具があり、あそこに行けば道具があるということで通っていた。そこでいろいろな人物と出会い、今もお付き合いがある。リニューアル後もそういう人と人をつなぐ場所であって欲しい。人をつなぎ、次につながる場所であると良い 美術館自身も人(や団体)と繋がる必要があるのでは無いか。特に教育普及事業に関しては、職員数も限られている中で事業のクオリティを保つためには今後様々な相手とのコラボレーションが重要になってくるのではないか。リニューアルに向けて今から進めていった方が良いのではないか。 創作室の利用に関しては、同好の人が集まって自主運営ができるような仕組みがあると良いのでは。定例的に誰かが足を運ぶような仕組みを作ってみるのも良い。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでも、障害者の方に創作室を利用していた実績があり、その経験を元に積極的に利用していただけるよう検討して参ります。 教育普及事業に関しては、リニューアルに向けてより一層の充実化を図ります。 今後の教育普及事業の検討材料とさせていただきます。 リニューアル後も、開館時間中は「いつでもだれでも」創作活動に取り組むことができるオープン・アトリエとして、創作室を運営して参ります。なるべく多くの方に利用して頂けるよう、魅力のある事業を実施できるよう努めて参ります。
第3章 リニューアルの具体的内容 1(3)国内外の人々が魅了される美術館 P19～P20 自主事業について	<ul style="list-style-type: none"> 自主事業のあり方は今のままで良いのか、検証すべき。「見る」を豊かにするのが美術館の役割で、学芸員の仕事もしかり。教育普及活動は、従来の事業にとらわれず、バリエーションを増やした方が良い。来館者のニーズに応えるべく、「1時間プログラム」「半日プログラム」「午後までプログラム」など、時代に合った見せ方の工夫を。 	<ul style="list-style-type: none"> リニューアルに際し、自主事業の検証や学芸員の資質向上についてより一層取り組んで参ります。

事項	内容	事務局の考え方
<p>第3章 リニューアルの具体的内容 1(3)国内外の人々が魅了される美術館 P19 多言語対応について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多言語対応の音声ガイドを求める外国人来館者は多いだろう。中国語, 韓国語, タイ語のニーズが高いと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針の最終案 P19 に音声ガイドやスマートフォンを利用した解説サービスなど, 幅広い鑑賞が可能な展示の手法の検討について記載を追加しました。
	<ul style="list-style-type: none"> 庭やカフェなど, 館内には魅力的なスポットがたくさんあるが, 存在を知らないまま帰ってしまうことが多い。館内を歩き回って楽しんでもらえるように, 外国語表記による案内表示等の工夫をしてほしい。 展示室内の解説パネルはほとんどが日本語表記のみなので, 外国語表記もあると良い。音声ガイドでも良い。仙台市博物館では外国語対応の音声ガイドがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本設計の検討の参考にさせていただきます。また, 音声ガイドについては基本方針の最終案 P19 に音声ガイドやスマートフォンを利用した解説サービスなど, 幅広い鑑賞が可能な展示の手法の検討について記載を追加しました
	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県美術館へのアクセス地図について, 英語表記をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> リニューアルに向けて建物内だけではなく, HP やパンフレット等の広告媒体のユニバーサルデザイン化についても取り組んで参ります
	<ul style="list-style-type: none"> 外国語のイヤフォンガイドを受けられるようにしてほしい。仙台市博物館には用意されているのに, 宮城県美術館にはないのが不思議に思う。 外国語ガイドは英語, 中国語, 韓国語があると良い。東南アジアやタイの方は英語が理解できる方が多いので, この3つの言語のガイドがあれば広く対応できるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針の最終案 P19 に音声ガイドやスマートフォンを利用した解説サービスなど, 幅広い鑑賞が可能な展示の手法の検討について記載を追加しました。
	<ul style="list-style-type: none"> 芸術は言語や国籍に関係なく共有できるものなので, 多言語表記はすべての情報・すべての言語に対応する必要はないが, ウェブサイト等, 美術館に来るまでの情報は重要である。外国語ページは簡略化したもので良いので, イメージが豊富だと良い。 県のアジアプロモーション課で中国人向け HP の開設の動きがある。また, 国際企画課では英語で facebook を開設しているので, 展示のお知らせ等の掲載を打診してみても良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> リニューアルに向けた広報活動に係る検討の参考にさせていただきます。 また, 基本方針最終案の P19 広報活動の充実に関して記載を追加しました。

事項	内容	事務局の考え方
第 3 章 リニューアルの具体的内容 1(3)国内外の人々が魅了される美術館 P19 広報活動について	<ul style="list-style-type: none"> • 館のコレクションに世界に誇れる質があるのに、情報発信が十分にされていない。パンフレットでも価値の高さがわかるような説明が必要。例えばニューヨークから学芸員を呼んで「具体」グループについて講演会を行う等、所蔵品のPRを積極的に行うと良いのでは。 • 建物の建築についても積極的にプロモーションをするべき。 • 広報時の写真にバリエーションがほしい。例えばアリスの庭にアリスの衣装を着た子どもがいる写真などは良いのでは。 • SNSの利用は国際的に盛んで、「インスタ映え」を意識した方が良い。四季に応じてウェブサイトの写真を切り替えるのも良いのでは。 • 佐藤忠良氏のアピールが足りないのではないか。このような世界的な芸術家が宮城県内にいたことを知らなかった。地元の芸術家について、在住の外国人や留学生にアピールしてほしい。 • 美術館に内向きなイメージがある。屋外ももっと活用して、外に向けたメッセージがほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> • リニューアルに向けた情報発信に係る検討の参考にさせていただきます。 • 基本方針最終案のP19に広報活動の充実に関して記載を追加しました。 • 広報の写真については、バリエーションの充実化を目指します。 • リニューアルに向けた広報活動に係る検討の参考にさせていただきます。 • また、基本方針最終案の P19 に広報活動の充実に関して記載を追加しました。 • 佐藤忠良氏や佐藤忠良記念館に関してもこれまで以上に情報発信をして参ります。 • 基本方針最終案のP19に広報活動の充実に関して記載を追加しました。
第 3 章 リニューアルの具体的内容 1(3)国内外の人々が魅了される美術館 P19 ユニークベニューとしての施設・空間の活用について	<ul style="list-style-type: none"> • 仙台市は「グローバル MICE 強化都市」のひとつに選定されている。国際会議等で「来た方にインスピレーションをもって帰っていただく」ことを目標にしており、美術館の理念ともマッチするだろう。 • 講堂の 300 名収容のキャパシティはユニークベニューとしては小さくない。(200 人程度の規模での利用が多い。)美術館にとってユニークベニューとしての利用は本来の設置目的とは異なるが、ぜひ検討してほしい。 • ユニークベニューとしての利用では、レセプションパーティーの会場としての用途が最も多い。美術館で利用できそうなのは講堂、エントランスホール、レストラン。外国の方はパーティーなどで中庭に出られると魅力を感じるだろう。北庭もナイトツアー等で使えるような興味深い空間。飲食物 	<ul style="list-style-type: none"> • ユニークベニューとしての施設・空間の活用の検討の参考にさせていただきます。

事項	内容	事務局の考え方
	<p>を持ち込むことにハードルがあるが、ユニークベニューとして運用実績のある九州国立博物館ではIPMの方法論によって害虫駆除等の対応をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニークベニューを紹介する立場としては、施設で何が提供できるのかを利用者に明確に示すことができるとありがたい。 	
<p>第3章 リニューアルの具体的内容 1(3)国内外の人々が魅了される美術館 P19 Wi-Fi 整備について</p>	<ul style="list-style-type: none"> フリーWi-Fi を屋外も含めた全域で利用できるようにするべき。海外からの来館者にとって重要な要素であり、またSNSの利用者は「写真を撮ったらその場でアップする」ことが多いので、その環境を整備することで情報発信を促進できる。 美術館内に子どもが飽きたときのための工夫がほしい。Wi-Fi は全域に配備するべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針最終案 P19 に管内全域のフリーWi-Fi の整備について記載を追加しました。 基本方針最終案 P19 ページに管内全域のフリーWi-Fi の整備について記載を追加しました。
<p>第3章 リニューアルの具体的内容 1(4)ともに築きあう美術館 P21～22 県民ギャラリーについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県民ギャラリーが使いにくい。空間が大きすぎる。多様な展覧会が開催できるようなづくりを。 	<ul style="list-style-type: none"> リニューアルの際は、比較的小規模な利用にも対応可能な利便性の高いギャラリーとします
<p>基本方針中間案の全体について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美術館という名称がつく施設においては、楽しめる空間であれば良い文化的施設と、博物館法で規定される目的をもった社会教育的施設があり、美術館は後者のはず。基本方針中間案からは、美術館に美術館とは異なる別のものが付随し、博物館法上の博物館から遠のいていくような印象がある。 4つのコンセプトが博物館としての根幹、展示まで続いていくのが理想的。しかし現状は博物館として何を行っていくのかが見えてこない。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も県美術館は、博物館法に規定される博物館として、「宮城県美術館事業運営方針」等を継承し、県民に生涯学習の場を提供し、県民が自らその教養と情操を高め得るように努め、本件の芸術文化の発展に寄与するよう努めて参ります。(基本方針最終案 P11～P12) 「展示」、「収集・保管」、「教育普及」そしてこれらを支える「調査研究」、この基本的機能がしっかりと形成されていなければ、宮城県美術館のリニューアルに係る4つのコンセプトから展開される事業の充実は望めません。リニューアルに向けてより一層基本的機能の充実に努めて参ります。

事項	内容	事務局の考え方
設備について	<ul style="list-style-type: none"> 館内の陶芸の窯のように、リニューアルの際にほとんど使用しないし、使わせてもらえないような設備は作らないようにしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> リニューアルの検討の参考にさせていただきます。
開館時間について	<ul style="list-style-type: none"> より遅い時間まで開館していると使いやすい。 年に一回程度で良いので夏の時期の夜に、閉館後に再度オープンして、美術館を開放してもらえると良い。来館者が普段とは異なる感覚で鑑賞することになり、新鮮な体験になる。 夜の1時くらいまで開館してはどうか。 17時閉館では見に行けない。毎日だけでなく良いので、21時くらいまで開館する日を設けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> リニューアルに向けて、開館時間の延長についてより検討を深めます。
割引について	<ul style="list-style-type: none"> 外国人割引があると良い 高齢者の割引がないのはおかしい 	<ul style="list-style-type: none"> 美術館運営の検討の際の参考とさせていただきます
被災地の県美術館としての役割について	<ul style="list-style-type: none"> 仙台メディアテークやリアス・アーク美術館 3.11 メモリアル交流館で実施している事業との棲み分けを考え、震災そのものをあえてテーマにしないという立場を貫くという姿勢も長い目で見れば、重要なのではないか。 震災に関する企画には、どんなものにも必ず反対の感情が付きまとう。安易な問いかけは当事者の気に障ることもあり、外から震災を語るのは一筋縄ではない。企画する側が「勝手に結論づけない」ことが重要で、問いかけること、波紋を投げかけることを意識している。県立美術館として宮城県の単位で震災を考えるのならば、県内の各地にアンテナをもつ必要があるだろう。 震災について、宮城の県立美術館には何らかの形で表現する義務があると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 被災地の県美術館としての役割の検討の参考にさせていただきます。 他の美術館とのネットワークを構築し、震災時の経験を元に、連携しながら、表現の形を探求して参ります。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県美術館にはもう少しポップさがあっても良いと思う。「びっくり」がある場であることが重要。 美術館の中庭に大きな可能性を感じる。パフォーミングアートなども実施してみてもは。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後のリニューアルの検討の参考にさせていただきます

事項	内容	事務局の考え方
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ リニューアルの際に、屋外で創作活動ができる場ができるの良い。 ・ 黒板アートのように書いて消せるツール，誰でも簡単に準備ができて簡単に片付けられるような創作の場が屋内外にあれば，入りやすいのでは。 ・ 視覚に障害を持っていても，来館すれば何かに出会える場所であって欲しい。 ・ 県美術館は堅い。出会いの場になっていない。 ・ アーティストの交流の場になっていない。 ・ 「あらゆる人に開かれる」だけでは不十分で，障害を持つ方等からは「人の中に入っていくづらい」という声もある。彼らにとって過ごしやすい日を設けることも必要。 ・ 「美術館をどうするか」をみんなで考える状況が必要。 ・ 今後リニューアルに関し，県民を入れたワークショップを実施し，県民の声を吸い上げてはどうか。毎回テーマを変えて月1回実施したり，第三者のファシリテータを呼んで開催するのも良い。ただし自分の立場に捕らわれずに考えを発言できる状況を作るのが重要。仙台市博物館や仙台メディアテークの職員を呼ぶのも一つの案である。 ・ どの施設をモデルに考えるのか。そして「それを超えたい」という意識が必要。どこコラボレーション，意見交換するのが重要。 ・ 「美術館はなぜ必要か？」「宮城県美術館はなぜ必要か？」を問うことが重要。美術館のポリシーを実現するための各施策であるはず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後のリニューアルの検討の参考にさせていただきます ・ 「人々が憩い，くつろぎ，集い，つながる美術館」を目指し，来館者の「出会い」の場となるような美術館づくりができるよう検討を進めて参ります。 ・ 障害を持つ方や，乳幼児を連れて来館する方等様々な背景を持つ方が感じる「美術館に行きづらい」という思いをどのように解決できるか，検討を進めてまいります。 ・ 今後のリニューアルの検討体制の参考にさせていただきます。 ・ 特定のモデルは現在ありませんが，県民の皆様のご意見を参考にさせていただきますながら，県美術館の強みを活かすことができるよう，リニューアル事業に取り組んで参ります。 ・ 県美術館において，「美術館の必要性」について常に問いながら，事業を進めております。今後も「宮城県美術館の建設基本構想」や，「宮城県美術館事業運営方針」を継承しながら，県民の声に耳を傾け，県美術館としての役割を確実に果たせるよう努めて参ります。

